

令和5年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回)

議事録

令和5年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回) 次第

令和6年3月14日(木) 10:30~12:00

会議室: 水道技術研究センター第1会議室+Zoom

1. 挨拶

清塚常務

石井委員長

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

厚生労働省 健康・生活衛生局 水道課

独立行政法人 情報処理推進機構

研究会事務局

2. 出席状況・資料確認

○出席者(委員)

会場: 石井晴夫委員長、新誠一副委員長、安部義博委員、
永井卓真委員、小平鉄雄委員

リモート: 松田敏浩委員、生島康教委員、橋詰伸夫委員、坂牧行夫委員、
小林健太郎委員、中村好志委員、森竜也委員、高井努委員、青柳伸一委員

○出席者(オブザーバー)

会場: 田中様、小長谷様(情報処理推進機構)

リモート: 木村様、山崎様(経済産業省 情報産業課)
古屋様(厚生労働省 水道課)

3. 議事

凡例: ☆: 報告事項、●: 決定事項 or 今後の検討内容、➤: コメント等

3-1. 前回議事録の確認

☆ 資料-1に基づき、前回審査委員会議事録の確認を行った。研究会事務局からは
前回委員会での指摘後の対応について補足説明があった。

➤いつまで期限を延長するかについて、なぜ標準インターフェースを使ってもらえな

いのか、独自インターフェースから標準インターフェースに変えるのはIT的にあまり難しくないとと思うが、なぜ対応できないのかということ、ベンダーに対してアンケートを実施した。

夏頃、その結果が上がってきたが、非常に大きな問題として、水道事業に係るIT技術者が非常に不足している。水道事業体だけではなく、ベンダーでも人がいない。DXを全産業で進めている中で、水道に特化したところでそういう対応をするのは、なかなか困難な状況にあるということが分かってきた。逆に言えば、プラットフォームの重要性が浮かび上がったということである。

昨年9月の委員会での生島委員からのご意見を踏まえ、アンケート結果と合わせた形で対応を考えてきた。具体的には、審議機関ではない、意見を交換するコミュニティを立ち上げた。ここで、水道事業者、ベンダー、そして研究会の役員も入って、様々な課題についての意見交換をさせていただいた。

その結果、標準仕様を作ったときには想定していなかった様々な問題があることがわかった。それらにどう対応するかを検討を始めたというのが、先ほどの研究会事務局から説明である。標準仕様書を使ってみて問題が生じたのでその書き直しを始めたということで、前回委員会の指摘を受け止めた対応をしているとご理解いただきたい。（新副委員長）

➤延長の繰り返しをどうにかしなければならないと考え、指摘させていただいた。対応していただいて非常にありがたいと思っている。議事録についてだが、私は委嘱を受けて参加させていただいているので、「大阪市水道局」と書くよりは個人名で表記していただければと考えている。（生島委員）

➤先ほど紹介したコミュニティには遠隔での参加も可能なので、積極的な参加をお願いしたい。厳しい意見を言っていただくと研究会も活性化するので、よろしく願いしたい。議事録の発言者名については、所属組織の名前で発言したい場合と、個人名で発言したい場合とあると思うので、それぞれの参加者が選ぶという形の方がいいのではないかと。（新副委員長）

➤議事録を送った上で皆様に表記を選んでいただきます。（審査委員会事務局）

●これ以降意見はなく、前回議事録は承認された。

3-2. 改定要求書（CR）の審査

☆ 資料-3、資料-4、資料-5に基づき、研究会事務局のJECCから説明を行った。

➤研究会会長の立場で説明する。改訂案の表を見ていただくとわかるが、チェックするのが非常に大変である。なぜこれだけの量になっているかというと、情報利活用ということで、いろいろな利用を考えねばならず、項目を増やさざるを得ないからである。これが本来の目的である。一方、コスト削減目的でこのプラットフォームを導入する水道事業者からすると、例えば、監視制御だけに集中するか、料金会計だけに集中するかという形になり、逆に項目数を減らしてほしいという要求が出てきている。

今具体的に研究会で検討しているのは、ある意味でそういうモデルである。コスト削減目的でプラットフォームを導入したい事業者もあるし、活用先に応じて必要な項目が違ってくるため、その活用モデルで必要な項目などを検討しているということである。それと同時に、これまではコスト削減が目的だったが、こちら側と他の台帳を連携しなければならない場合にはどうやって移したらよいか、その項目をどのようにマージしていったらよいか、そういった検討も始めている所である。

そういった機能をプラットフォーマーであるJ E C Cに作ってもらうのか、そうではなくて、会員にそういうアプリケーションを作ってもらって、さらに研究会を活性化していく方法がいいのか、こういったことを、J E C Cを含め、水道事業者、ベンダーと考え始めている所である。それに合わせた改訂案を委員会でご審議いただくことになってくると思う。

とりあえずは、今ある項目の中で、足りないものや必須のものを各専門のSIGでご検討頂いて、挙げてきたというところである。そういう事情で、今回これらの項目を挙げさせていただいた。（新副委員長）

➤詳細な、また補足のご説明をいただいたので、より理解が深まっている。簡易水道の場合には、この中から必要なものだけをピックアップすることになるのではないかと。（石井委員長）

➤簡易水道型のモデルを作りたいと考えているので、ピックアップした結果みたいなものを研究会事務局にご報告いただくと、他の簡易水道の事業者もいるので、そこでまたご議論いただくことがよろしいのではないかと。（新副委員長）

➤今の新副委員長のお話の補足をさせていただく。研究会HPで水道施設台帳の整備項目案を公開しており(<https://www.j-wpf.jp/topics/2021/3066/>)、今回の標準仕様書の改訂になるデータ項目がここに載っている。膨大な量になっているが、資料③にあるテンプレートを作っており、小規模事業者であれば44項目、中規模事業者であれば78項目、大規模事業者であれば180項目という形で整理されていて、事業規模に合わせた項目を選べるようになっている。今おっしゃられたよう

に、簡易水道版もあるといいとご意見をいただいたので、ご相談しながら進めさせていただきたい。（研究会事務局）

➤我々の会員にも声をかけて、情報提供していきたいと考えている。（全国簡易水道協議会）

➤今回の標準仕様のデータ項目の修正ということで、項目数が増えたという認識だが、データ項目は規模別とか簡易水道とかである程度モデル化されて選べるという議論があった。しかし、標準仕様書に準拠することという仕様書があれば、データ項目が提示されていると、それを100%満たさなければならないという認識でベンダーは構築すると思う。そこが、今、すでに選べるという標準仕様になっているのか、今、モデル案という書き方をされていたので、今の時点では増やしたデータ項目数を100%採用しないと準拠しないのかというところをお伺いしたい。（情報処理推進機構）

➤この標準仕様書を作った経緯まで踏み込まないといけないことになる。この標準仕様書を作ったときには、情報利活用を中心に考えていた。そのためにいろいろな会計情報だとか配管の情報だとか、それから下側の監視制御の情報だとかアセットの情報だとか、こういったいろいろな情報があるというので必要な情報項目になる。全部あげている。今ご指摘にあったように、情報項目のうち全部を使わなければいけないのか、つまみ食いでもいいのかということが議論されていない。

現在はプラットフォームを使う側がその項目全部を埋めなければいけない。監視制御で入れるのに、上の各台帳の情報も入れなければならない。これが非常な手間となっている。これを水道事業者が見ると、コストがかかりすぎではないかというご意見が出てきている。

今、研究会事務局からお話したように、一応、規模別ではこんなものがあるのではないかという案はできている。しかし、規模別なだけであって監視制御だけに使うだとか会計だけに使うだとか、目的別の案はまだできていないということである。

これは研究会の方でもませていただきたい。具体的にご指摘あったように、事業規模に応じた違いや、また他のものを組み合わせるとどうなるかということを含めた、アプリケーションの開発などが必要だという問題意識は皆さんお持ちである。案ができ次第、こちらの委員会の方で審議していただきたい。

各SIGは具体的な話をしている。先ほど言ったコミュニティで、ベンダーや水道事業者がざっくばらんな議論をしているので、そこにIPAさんのようなIT技術の専門家のご意見が聞けると非常にありがたい。ご協力をお願いしたい。

良ければもう一言付け加えさせていただきたい。4月からは下水と上水一緒に運営みたいな形になる。そうすると水道情報活用システム標準仕様研究会としても、その下水の事情みたいなものを考えて上下水一体として運営されてる事業者さんもいるということで、かなり仕様書全体を見直さなければいけない時期に来ているのではないかと思っている。

そういった枠組みも含めて、場合によっては今の委員会の形が適切かどうかということも考えていかねばならない。研究会の方でも考えているので、審査委員会の方でも対応をお考えいただいた方がいいかもしれない。（新副委員長）

➤ 上下水道一体部局として、大分市さんは何かご要望などはありますか。（石井委員長）

➤ 我々は上下水プラットフォームを利用させていただいている。4月から両運用になるので、その中で問題点等があれば、挙げさせていただく。（大分市上下水道局）

➤ JWRCさんの方から何かありますか。（石井委員長）

➤ 水道だけでいいというわけではないと思うし、下水の方にもお話ししながらどういう運営がいいのかというところを、皆様とご相談しながら進めていければというふうに思う。（JWRC清塚常務）

➤ ベンダーサイドでメタウォーター永井さんいかがですか。（石井委員長）

➤ これだけしっかりとした仕様書という枠組みを作っていたので、我々ベンダーは責任をもって活用して水道事業体の皆様にご提案し、導入を増やしていくのが使命なのではないかと思う。改めて4月以降上下水一体ということも踏まえて、導入促進をしていきたい。（メタウォーター永井委員）

➤ 今日提案いただいた改定要求書CRの審査に関しては、いろいろ有益なご意見、ご提案があった。そういったものも今後の課題として捉えながら、研究会と審査委員会がともに協力しながら進めていきたいと思う。本日の改定要求書の審査は承認ということでよろしいですか。（石井委員長）

● 改定要求書（CR）の審査結果：

その後、出席委員からの異議はなく、承認された。

4. その他（標準仕様研究会からの連絡事項）

☆ 資料－6に基づき、研究会事務局のJECCから説明を行った。

添付資料

資料－1 令和5年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第1回)議事録(案)

資料－2 標準仕様書の改定審議依頼書

資料－3 改定要求書(CR)

資料－4 別紙1_水道情報活用システム基本仕様書WPSC001_Ed.1.3_(案)

資料－5 別紙2_改定(案)の抜粋

資料－6 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況について

以 上

運営検討部会にて対応を検討の結果、以下の追加対応をとることといたしました。

【追加対応】

1. 標準仕様書の条文の修正

審査委員会へ付議した議案では、水道標準プラットフォーム外部仕様書の延長期日のみを修正するCRを提出しておりましたが、状況が変わってきていることから、該当文章を見直す。また、本変更は、標準仕様を変更するものではない変更事項であるため、本部会での決議をもって標準仕様書を変更することとする。

2. 標準インターフェイス対応の周知

標準仕様書の改訂時には、研究会ホームページにて標準仕様書が改定された旨通知しますが、今般の通知をホームページで行う際には、延長期後の導入検討については標準インターフェイスを想定したご検討を進めて頂くことを推奨する旨追記する。

また、ホームページの公表だけにとどまらず、WG等においても周知に努めます。

3. ベンダの理解度向上策の検討

ベンダの理解度向上策として、標準インターフェイス対応とは具体的にどのようなことかの説明をプラットフォーマーと協力し行う。

以上